

高山

たかやま

高山の原生林を守る会

会報 第 105 号

2018年 6月



第 158 回自然観察会:塩手山(新緑の里山)と新地町防災緑地公園観察会

5月13日(日)に塩手山(新緑の里山)と新地町防災緑地公園観察会を実施しました。参加者は15名でした。福島大学の黒沢教授と学生の増田さんが参加されました。今回は塩手山に、新地町防災緑地公園と中磯(舞子浜)の観察会が加わり、1日で済ますにはもったいない観察会となりました。防災緑地公園の観察では県相双建設事務所の高橋道路・橋梁課長に案内していただきました。塩手山は、登山道整備計画が地元紙で紹介され、過剰整備を心配する声が会員からも寄せられていましたが、登山口で偶然その関係者にお会いすることができ、お話しすることができました。出発地点から観察ポイントが豊富でなかなか山道に達しません。自然林に入ると黒沢さんと増田さんは質問攻めの状態でしたが、参加者は、聞けば即座に帰ってくる回答に大満足の様子でした。昼食後、新地町防災緑地公園内に環境保全地区として整備される塩性湿地や自然観察池を観察しました。高橋課長から計画の概要を、黒沢先生からは、湿性地进行再生の試みは前例がない画期的なものであるとの説明を受け、高橋課長の案内で整備地区の植生を観察しました。最後に、中磯に移動し、ハマナス、ハマエンドウ、ハマニガナ等のわずかに残された浜辺の貴重な植物を観察しました。箱物優先の復興事業の中で湿性地进行再生を目指した事業は異例で、住民が関心を持って見守ることが強い後押しになると思われます。



カワヂシャ



コウキヤガラ

先日は観察会に同行させていただき誠にありがとうございました。

自分は県外の出身というだけでなく、海に行くこともあまりなかったためにこのような植生があるのかととても驚かされました。

塩手山ではヤマガシユウなどの山の植物やカシナガキクイムシの食痕のような珍しいものを見ることができただけではなく、福島市内との花季の違いに驚きました。

新地町や大戸浜では、コウキヤガラをはじめとした海岸の塩性湿地性の植物や砂浜特有の植物だけではなく、塩性湿地の保護に関わる貴重なお話を聞くことが出来ました。また訪れて経過を見てみたいです。

どちらも初めて訪れる場所であったため、初めて見る植物や昆虫がいて、不慣れなところからご迷惑をお掛けしてしまいましたが、貴重な体験をさせていただき誠にありがとうございました。

とても楽しかったので、次回お誘いいただけたらぜひ行きたいと思います。

自分は祖父が植物の分類をやっていて、自身も小学四年生の時に県内初記録の帰化植物としてヌカイトナデシコを発見して以来、自分も植物に興味を持ち、植物だけではなく昆虫や冬虫夏草も含めていろいろと生物に興味を持ち、調べて知識をつけました。また、福島大学で黒沢先生が植物分類をしているということで福島大学に進学し、実家のある群馬県からこちらへ越してきました。

群馬にいた頃もヌカイトナデシコ以外にもコシカギクなどの帰化植物を発見するだけではなく、ホシクサなどの絶滅危惧植物の新産地を見つけました。そういった発見以外にも県内北西部を中心にいろいろなフィールドでの植物の観察をしてきました。コシカギクの二回目の発見が部活の大会で訪れたグラウンド上であり、ホシクサに関しては下校中転んだ目の前の田んぼに生えていたなどといささか間抜けなエピソードもありますが、そういった経験を生かすというだけではなく、福島地域の植生などの知識を得ることで自らの糧にし、自分も成長していきたいと考えています。

そういえば、観察会中に図鑑の話題になったと思ったので、私が個人的にお勧めする図鑑を紹介したいと思います。

植物に関して初心者にお勧めする図鑑ですが、花のおもしろフィールド図鑑全三巻です。これは軽井沢でツアーなどの活動しているネイチャーグループであるピッキオ様の図鑑で、季節ごとの代表的な花が写真付きで花色で分けられて掲載されており、福島と一部異なる植生はありますが、代表的な山の花は数多く掲載されています。ま



ヤマガシユウ



アブラツツジ



ツクバネ雌花(左)と雄花(右)



湿地再生の意義について説明を受けました



湿性地の植物を観察



ハマナス



ハマエンドウ

た、インターネット上で探すときはいがりまさし様の撮れたてドットコムも参考になることが多いです。

昆虫についての図鑑は申し訳ありませんがあまり詳しくありません。

キノコについての図鑑は種数も多く、食用キノコに関しては調理法も掲載されている山と溪谷社の日本のキノコを私は利用しています。ただ欠点として大きいので持ち歩くのが難しいです。

また、様々なより詳細な分野の図鑑に関しては、文一総合出版のハンドブックシリーズが使えることがあります。この図鑑は一冊一冊がそれぞれのジャンルに特化していますが、ハンドブックというだけあって図鑑にしてはサイズが比較的小さく、薄いため持ち運んでの確認がしやすいです。

それ以外にも図鑑は多種多様なものがあるので、最終的には自分に合った図鑑を見つけることがいいと思います。

157 回自然観察会：蟹ヶ沢・スプリングエフェメラル観察会に参加して 林 和寛



第 157 回自然観察会：蟹ヶ沢・スプリングエフェメラル観察会

蟹ヶ沢観察会に参加させていただきました。20名の参加です。

観察会を下見等、準備していただいた皆様に御礼申し上げたいと思います。いつもありがとうございます。

4/29(日)観察会当日は快晴、そして無風。年に3、4日あろうかと思えるような好天でした。集合場所から高湯街道に向けて出発すると藤の花が咲き、起こされた田んぼ、水が入っている田んぼもありました。桜の季節が終わって次の季節へと移りつつあります。高湯街道に入ると自転車で浄土平に登る人を見かけました。福島にはこんな遊びが近場でできる環境があり、うれしい限りです。高湯街道を右折して吾妻高原スカイランドをぬけていきます。

実は、私は星男君です。星景写真が好きで撮影地を探していたところでした。標高750mのスカイランドは絶好の撮影地です。福島でもタイムプラス撮影に励みたいと思います。ラジコンヘリやドローンを飛ばしても楽しめる場所でもあると思いました。林道に入り、李平に向かいます。整備されている林道なのでMTBでのんびり散歩したらさぞかし楽しかろうと思いました。本当に福島はいいところです。

車を降りて観察会の始まりです。実は私はザックを持っていません。観察会にはどんなザックが良いのか分から



輝くブナ林



湿地帯の植生観察

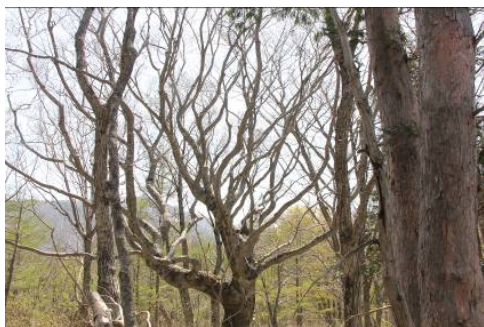


展望を楽しみながらの昼食

ないので皆さんのザックの観察です。皆さん 20～30 リットルのザックが主流でした。守さんは 35 リットルです。次回は 30 リットルザックで参加したいと思います。

林道にはフキノトウが咲き誇っていました。なんでも雄と雌があるそうで雄が圧倒的に多いのだそうです。守さんにトチの実、芽のベトベトを教えてくださいました。林道をそれて山に入るとイワウチワが足の踏み場がないほど咲き誇っています。スギナみたいに地下茎で増えるのでしょうか？？沢や湿地にはミズバショウが美しく咲いておりました。

こうして森林浴をしていると自然界にはまず直線というのがありません。ナスターシャ・キンスキのキャットピープルに出てきそうなブナの木がありました。



筍状のブナ



アカシデを飲み込むウダイカンバ

アカシデの木とウダイカンバの木が同じ場所でせめぎあっているところを観察しました。自由に移動できる人間で良かったと思いました。植物界にも生き残りをかけたせめぎあいがある事を知りました。

さて、昼食です。米沢板谷との県境の山尾根を眺めながらいただきました。ビッグ大森店の値下げ弁当を主食にしている私はあたかも竜宮城に招かれた浦島太郎のようでした。これだけ皆様に良くしていただくと、私には何ができるのかと考えてしまいます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

西吾妻山城登山道保全誘導ロープ設置ボランティア報告

6 月 17 日(日)に西吾妻山城登山道保全誘導ロープ設置ボランティアを実施しました。今回の参加者は 7 名でした。荒天を回避して 1 日延期しましたが、前日の天候とは一転して無風快晴、爽やかな日となりました。8 時前にデコ平湿原駐車場を出発。カラマツ林に入るとズダヤクシュ群落が開花しました。例年ですと花は見られないのですが今年はやはり季節が進んでいる様です。デコ平湿原はコバイケイソウとレンゲツツジ、白いワタスゲ群落が見事でした。

西大巔山頂から水場と西吾妻小屋下湿原の 2 班に分かれて誘導ロープ設置作業を行いました。ヒナザクラが丁度満開で湿原はヒナザクラ畑と化していました。今年は曲がっている鉄ピンが多く、その改修に多くの時間を割かれてしまい、西吾妻小屋についたのは 13 時過ぎとなってしまいました。いつもなら NF 米沢に皆さんと合流して昼食を共にしていたのですが、今回は既に NF 米沢の皆さんは昼食を終え西吾妻山頂先の湿原の作業に出発していました。それでも竹田さんがいつもより到着の遅い我々を待っていてくれました。最近では西吾妻小屋手前の湿原は NF 米沢の皆さんが作業をしてくれるので助かります。

西大巔から西吾妻小屋の区間はアルミ杭の回収と曲がった鉄ピンの補修作業が課題となってきています。杭補修と打ち込み、ロープ架設の分業化を図る必要があることを痛感しました。



力仕事のボランティアお疲れさまでした



西大巔の崩壊は止まらない



ロープ設置で水場周辺の植生は回復



誘導ロープで池塘群から隔離

私は前回の「鹿狼山から 4 3 ～釣師防災緑地植樹祭」の文章に、2 h a の植生保護地（塩性湿地）がどこにあるか確認できなかったことを書きました。それを知った福島大学の黒沢先生が、当会の第158回自然観察会に参加され、現地を案内してくださる事になりました。また、工事を担当している福島県相双建設事務所復旧復興部の方もいらしてくださいました。黒沢先生のお話では、植生保護の観点を持って復旧・復興工事をするという事に対してまだまだ理解が進まず、今回、県事業である埤浜防災緑地の中に塩性湿地や自然観察池ができるのは画期的な出来事であるという事でした。また、地元市民が植生保護地の存在や、その意義を知ることがとても大切であるということも話されていました。

私は新地町の住人ではありますが、この7年間の復興工事にに関しては自分に関わりの無い、手の届かないところでやっているようなイメージがありました。長い間の公務員生活のせいか、トップダウンの人任せ体質が身に染みついてしまったのかもしれません。それで、ただ呆然と成り行きを見ているだけでした。「防災緑地ワークショップ新聞」の存在も今回初めて知りました。

新地町では「町のみんなの声募集」ということで5回のワークショップをやっていました。1枚目の写真はそのワークショップの最終回で出された「釣師・埤浜防災緑地マスタープラン」です。埤浜防災緑地（県事業）の中に塩性湿地と自然観察池が描かれています。新聞の中には、ウミドリ観察会という文字もありました。塩性湿地の植物も話題になったことを知りました。震災後にワークショップへの参加募集があったことは知っていたので、私も参加すれば良かったと、今頃になって思いました。

さて、塩性湿地は砂子田川の側にありますが、汽水を取り込むような構造にはなっていません。今は、工事現場の一部のような土地です。コウキヤガラ（絶滅危惧Ⅱ類）や葎、ガマ等の他にカワヂシャやトウオオバコ、ハルジオン、カラスノエンドウなど色々な植物がありました。私が小さい頃は、葎やガマで覆われた湿地がずっと広がっていました。震災後、工事が入っていなかった時は、昔の姿に戻っていました。やがてこの塩性湿地も葎やガマが繁茂する場所となるでしょうが、そこには鳥や昆虫がやってくるだろうし、塩性湿地でなければ植生しない植物も見られるかもしれません。自然観察池にはミズアオイなどが出て来るかもしれませんし、今後の移り変わりが気になるところです。

この後、観察会は大戸浜に移動しました。大口浜の南部を地元民の私達は「まいこ浜」と呼んでいます。また83歳になる母は「おつと浜」だとも言いますが、地図にも何にもこの名称は表記されていません。この浜辺は震災前の風景と同じです。観察会の際はハマナス・ハマエンドウ・ハマニガナなどが砂浜に咲いていてきれいでした。特にハマナスは香りも良く、会員に人気でした。あの津波にも負けず、根は残ったものと思われます。

福島県の海岸に自然海岸はほとんど残っていないそうです。港や堤防やコンクリートの消波ブロックに覆われています。美しい自然海岸は希少価値とも言えるのでしょう。私は6月になって、ハマヒルガオをみたいと思い、まいこ浜に出かけてみました。青い海と砂浜とハマヒルガオは美しい風景でした。

（2018/06/24 記）



防災緑地ワークショップ新聞No.5より



大口浜に咲くハマヒルガオ

東北ブナ紀行（66）

奥田 博

今回も「山形百名山」に選ばれた二山を紹介します。どちらの山も無名ですが、山形では知られた山。長井市在住のガイドNさん曰く「山形百名山」のお陰で仕事が忙しくなったとのこと。「山形百名山」ガイドブックも売れ行き順調。

97) 熊野山 670m

熊野山という山は地図上にはありません。途中に産土神として祀られた熊野神社が建つために熊野山と呼ばれている。

道照寺スキー場のエプロンから歩き出す。尾根にのると東からの登山道と合流する。尾根の上は、南側に杉林も広がるが、登った時にはブナをはじめ、トチ、カエデなどの新緑が美しい。その中にムラサキヤシオツツジの紫が映える。大きな熊野神社前には、東が開けた展望テラスがあり、コーヒーを頂いた。

ブナ新緑は、この先が本番。神社裏の大杉ご神木を見て、緩い道を登ると、ブナ新緑と足元にはイワウチワが迎えてくれる。第一展望台、第二展望台は不要な建物が目障りだ。長井ダムの向こうに残雪に覆われた祝瓶山が鋭く天を衝く。ブナは太い幹は少なく、二次林が主体で「未来の森」と呼べそうな存在だった。山頂の開けた南側からは、赤イタヤの新緑が印象的だった。

コースタイム：登山口（1時間）熊野神社（30分）山頂（1時間10分）登山口

98) 大頭森山 984m

昨年冬、第88回のブナ紀行で冬の大頭森山（だいずもりやま）中腹の一本・大ブナを紹介したのだが、昨年春、大頭森山は「山形百名山」に選ばれたことを知った。この山は車道から15分ほどで山頂に立てるのだが、道は大きなブナに覆われており、ブナ好きには容易に純度の高いブナに出会えるウレシイ山。

震災前年の6月に会員の佐藤恭二さんと朝日連峰に向かったが、あいにくの雨模様。登山を諦め、途中で立ち寄ったのがこの山だった。町道を車で走っていると「大頭森山」の看板を見付けて歩き出す。すぐにブナに囲まれ、深山の雰囲気漂う。この時期、目に付いたのは真白なツルアジサイの花に絡まれた大ブナや大トチの木。木が弱っている風にも見えないが、大ブナが白い花を咲かせている木が何本も見られるのは異様というか不思議な風景だった。

登りらしい登りもなく、広い遊歩道を登ると大展望の山頂に到着した。確かに朝日連峰の展望台といえそう。しかし今日はあいにくの曇り空で朝日の山々は見えなかった。立派な展望説明板をみて、下りについた。

コースタイム：登山口（15分）山頂（10分）登山口



ブナ新緑の時期は、太陽に透かすと産毛が光る



大頭森山にはこんなブナが、たくさん！

ズダヤクシュ (*Tiarella polyphylla* ユキノシタ科ズダヤクシュ属)

吾妻・安達太良連峰のブナ林から亜高山針葉樹林の湿った林床や沢付近に植生する多年草。ズダヤクシュは同じユキノシタ科のチャルメルソウ属と近縁とされる。確かに、葉や花序の形態はズダヤクシュとチャルメルソウは似ており、特に花はエゾノチャルメルソウを彷彿させる。植生地から推察するとチャルメルソウの方が水辺を好むようである。ズダは信州地方の喘息を意味する方言で昔から喘息の薬として利用されたことから薬種の名が付いた。処方としては開花期に全草を採取し、洗浄して日干し後薬 20g を煎じるか、酒に浸漬する。

葉は地下茎から発生した根生葉と茎葉がある。茎葉は互生で、葉形は円から広卵形で先端は鈍角に尖り、カエデに似る。基部は心形で内側に切れ込む。葉縁は浅く3～5裂する。葉質は柔らかく葉の両面ともに毛が多い。根生葉の葉柄には短い腺毛が着生する。種小名は「たくさん葉のある」ことを意味する。

花は頂性である。根茎から花茎を伸ばし、茎葉を数葉着生した先に総状花序を形成し、約 10～20 個の小花を下向きに咲かせる。花茎、花柄ともに茶褐色で短い腺毛が多く着生する。花弁のように見える筒状の器官は萼で、萼片は白く深く5列する。萼片の表面には白毛が密生する。萼片の間から5本の白い糸状の花弁が四方に伸びている。雄しべは 10 個で葯はクリーム色。葯は萼片の外側に連なって垂れ下がっているように見える。雌しべはやや赤みを帯びた棍棒状の花柱が長く伸びその先の柱頭は白く小さい。自家和合性である。受粉はハナアブやコハナバチによる虫媒である。

ズダヤクシュの子房は2裂し、果実は2つの心皮が非対称の舟形に成長し、下側が長い。この構造により、下部の心皮が雨滴によって下に押し下げられた後に跳ね上げられる「跳ね台機構」による種子散布を行っている。この種子散布法を雨滴散布と言う。確かに開花のタイミングは入梅の頃で、この時期にブナ林を散策すると花の下側から耳かきのような緑色の果実片を覗かせたズダヤクシュに出会う。



ベニバナニシキウツギ (*Weigela decora* f. *unicolor* タニウツギ科タニウツギ属)

安達太良連峰の岩稜帯付近に植生する落葉広葉樹。吾妻・安達太良山域にはタニウツギ属ではタニウツギ、キバナウツギ、ツクバネウツギ属(リンネソウ科)ではツクバネウツギ、ベニバナツクバネウツギが確認されているが本種は吾妻連峰では今のところ確認できていない。ニシキは二色で花色が白から紅色に変わることによって由来するが本種は最初から紅色なので変異種小名は一色を意味する *unicolor* となっている。タニウツギ属ではニシキウツギが太平洋側に、タニウツギが日本海側にすみわけ分布している。ベニバナニシキウツギの北限は宮城県南部で県内では阿武隈山地が植生の中心である。ウツギ類は地上部が柔軟で岩屑や土砂の崩落、移動に耐えうる生育形態を有しているとされる。ベニバナニシキウツギの植生が確認された場所は登山道沿いで、散在的であることから、外部からの混入の可能性も捨てきれないが、本来の隔離分布としたらその地理・気候的背景はどのようなものなのか興味深い。

葉は対生。葉形は倒卵状楕円形。葉縁は細かい鋸歯が赤く縁どられ、先端は細く尖る。葉は短い葉柄がある。葉身には深い曲線状の葉脈が走る。葉の裏面脈上には縮れた伏毛が密生する。

花は頂腋生。側生した短枝の先端、または数節に亘って葉の付け根から集散花序を形成し2～6個の漏斗状の左右対称の合弁花を着ける。花冠の色は濃紅色で開花前の蕾の先端は黒ずむ。花冠の先端は5裂する。花冠筒部は拡大部より短い。雄しべは5個、花糸は桃色を帯びその先にへら状の黄白色の葯がつく。雌しべの柱頭は白色で花冠の外に突き出る。萼筒は狭い円筒形、基部まで切れ込む。

梅雨の晴れ間をついて、体力作りをかねて、いつもの箕輪山に至るルートを辿った。このコース沿いの植物は何故か赤みの濃い花が多い。通い慣れた登山道だけに場所により出会う植物もよく分かっている。しかし、これまで見たこともない派手な色をもったウツギの仲間に出くわした。例年より生物季節が進んでいたためなのか。同行者に断りを入れて本格的に撮影を始めたが、日頃の行いが悪いせいか、肝心な時に限って山風の意地悪を受ける。



第 159 回自然観察会案内：吾妻・不動沢橋－慶応山荘手前 夏の山岳植物観察会

日時：2018 年 7 月 8 日（日）7：30～16：30

集合場所：四季の里交差点正面入口駐車場 集合時間 7：30 参加定員 20 名

内容：吾妻・不動沢橋～慶応山荘手前 夏の山岳植物を観察します。

準備するもの：昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（500 円）

申し込み：7 月 7 日（土）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話 申込は午後 7 時～9 時でお願いします）。メールの際には「全員返信」モードをお願いいたします。

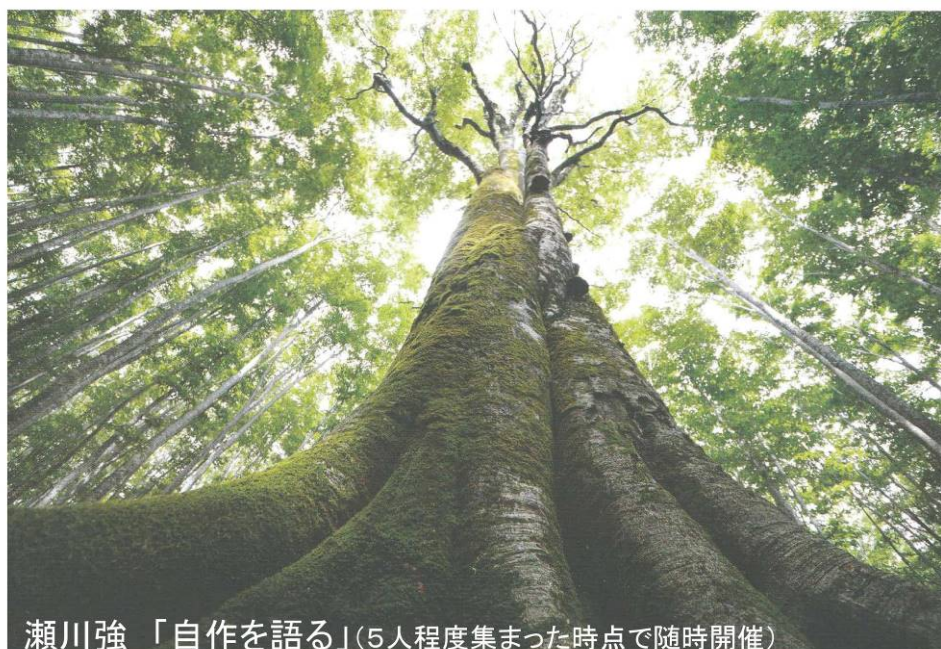
瀬川強イーハトーヴ西和賀写真展&高山の原生林を守る会福島県自然・花・山写真展

2018 年 7 月 9 日（月）～15 日（日）

10:00～17:00 ただし 9 日 14 時から、15 日 15 時まで

福島駅西口コラッセふくしま入場無料

1 階アトリウム＋5 階プレゼンテーションルーム



瀬川強「自作を語る」(5 人程度集まった時点で随時開催)

7 月 9 日 14 時～17 時随時 7 月 10 日 10 時～12 時随時会場にて

多くのカンパをお寄せいただきありがとうございました。

是非とも皆さんの周辺の方々に PR をお願いします。

NF 米沢吾妻連峰・弥兵衛平湿原植生回復ボランティア作業のお知らせ

内容	日時	参加費	申込締切日	集合場所
第 1 回種取り作業	8 月 11 日 7:20～17:00	1000 円	8 月 1 日	ロープウェイ
第 2 回種取り作業	8 月 19 日 7:20～17:00 (予備日: 8 月 26 日)	1000 円		湯元駅
種まき・緑化ネット防霜用 こもかけ作業	9 月 23 日 7:20～17:00 (予備日: 9 月 30 日)	1000 円		7:20 集合

* 参加費は保険・ロープウェイ・リフト代込み。置賜森林管理署との共同実施作業です。

「高山」高山の原生林を守る会会報 第 105 号 2018 年 6 月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP: <http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間 7 時～9 時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000 円)を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田・小幡